

株式投資の新潮流とスマートベータ ーリスクプレミアムとベンチマークインデックスー

加藤 康之 CMA

目 次

- | | |
|--|---------------------------|
| 1. はじめに | 4. スマートベータのリターンとリスクプレミアム |
| 2. シングルファクターからマルチファクターへ
(ベンチマークインデックスの進化) | 5. スマートベータの利用法とGPIFによる採用例 |
| 3. スマートベータの登場 | |

1. はじめに

機関投資家の運用手法を対象にした研究分野は機関投資家の台頭とともに80年代半ばから急速に立ち上がってきた。中でもベンチマークインデックスは機関投資家にとって必要不可欠な道具であり続け、その重要性は変わっていない。そのベンチマークインデックスの分野で近頃最も注目を集めているのがスマートベータである。ただし、スマートベータという言葉自体まだ新しい用語であり、人によって理解が異なり定義もまだ固定していないと言える。今回は、ベンチマークインデックスがスマートベータに行きついた経緯、スマートベータとリスクプレミアムの関係、そして、

スマートベータの利用方法についてGPIFの採用事例を含めて解説する。

2. シングルファクターからマルチファクターへ (ベンチマークインデックスの進化)

ベンチマークインデックスを理解する上で、株式ポートフォリオのリターンの源泉が何かということを中心に整理しておく必要がある。ここではリターンの源泉を3つに分類する。リスクプレミアム、アノーマリー、そして、個別要因リターンの3つである。アノーマリーと個別要因リターンを併せてアルファと考える。リスクプレミアムと



加藤 康之 (かとう やすゆき)

京都大学大学院 経営管理研究部 教授。1980年東京工業大学修士卒業後、(株)野村総合研究所入社、システムサイエンス部長。97年に野村証券(株)へ転籍、05年に同社執行役に就任、金融工学研究センター長、フィデューシャリー・サービス研究センター長など兼務。11年から現職。他に日本証券アナリスト協会教育委員会委員、(株)日本取引所グループ・アドバイザー、全国市町村職員共済組合連合会資産運用委員会委員、(株)お金のデザイン・アドバイザー等。著書に『金融工学辞典』、『資産運用入門』(東洋経済)等。

(本稿は平成26年12月18日に日本証券アナリスト協会にて講演された講演会の要旨である。)